

令和5年度都市政策研究アドバイザーボードにおける議論の報告

住民の暮らしやすさの維持・向上に向けた

都市機能のあり方（骨子）

2024年3月

報告書の構成

1. はじめに
 2. 神戸の都市機能の現状分析
 3. 課題認識と論点
 4. 都市機能のあり方
 - (1) 若年層の人材育成・集積のための就労環境整備について
 - (2) 住宅の循環(流通)について
 - (3) 多様性を受け入れる都市のあり方について
 5. おわりに
- 附属資料 1 都市政策研究アドバイザリーボード講演等資料
- 附属資料 2 都市政策研究アドバイザリーボード概要・開催状況

報告書の骨子（課題認識・論点）

課題認識

住民の暮らしやすさの維持・向上に向けた都市機能のあり方を検討するにあたり、神戸の都市機能の現状分析を基に、「神戸の都市機能はどうあるべきか」について、都市としての位置付け・役割の視点、空間計画の視点、価値の視点などに基づき意見交換した結果、次の3点の都市機能のあり方を論点として導き出した。

論点(都市機能のあり方)

視点

(1) 若年層の人材育成・集積のための就労環境整備について

- ・ 大学都市神戸における学生生活の充実とビジネスの創出
- ・ 若者が神戸に定着するための魅力・コンテンツづくり

(2) 住宅の循環(流通)について

- ・ 人口減少への適応と都市機能のあり方
- ・ 大都市としての役割・価値とはなにか

(3) 多様性を受け入れる都市のあり方について

- ・ 外国人を受け入れる都市機能のあり方とはどのようなものか
- ・ 多様性と寛容性、国際的に貢献する都市とはどのようなものか

報告書の骨子（論点）（1）若年層の人材育成・集積のための就労環境整備について

課題

神戸市に**若年層が定着**しない／過去50年で15歳未満人口の割合が減少
大学数が多いにも関わらず、**大学卒業時の転出超過**が大きい

論点

- ① 若い世代が神戸市を**働く場所**に選ばない理由は何か？
- ② 大学都市神戸において、**次世代の人材**をどう育てていくか
- ③ 若年層を巻きこんで、どのような**魅力・ビジネス**を新たに創出できるか

まとめ

- ・神戸市における**就職先**についての**情報を収集できる窓口**が必要である。
- ・**大学と企業と学生をつなぐ大学都市神戸 産官学プラットフォームの活用**を検討する必要がある。
- ・産官学連携交流拠点を積極的に活用して、良い取り組みを戦略的にどう若者に届けるか、**プロモーションの視点**が重要である。
- ・大学で人材育成することには限界がある。**神戸で、地域で人材育成することを改めて考える必要がある。**

報告書の骨子（論点）（2）住宅の循環(流通)について

課題

今後、人口・世帯減少が見込まれるなか**空き家が増加**する

論点

- ① 空き家の発生を**未然に防ぐ**ための取り組みについて
- ② 住宅を**流通**させるための仕掛けづくりについて
- ③ 空き家・空き地の**利活用**の方法について
- ④ その他 新築志向から**中古市場へ**どう**転換**させるか／空き家を活用した**外国人留学生の居住**について

まとめ

- ・ 空き家対策としては点ではなく**エリアリノベーション・再生マネジメントの視点**を入れて考えていく必要がある。
- ・ 住宅に対する需要に応じた住宅の供給が継続的になされ、**需要と供給をつなぐ仕組みがきちんと機能すれば、スムーズな住み替えが実現**することになり、空き家発生の抑止にも寄与する。
- ・ 空き家予備軍は、ほぼニュータウンで拡張していったエリアにあるが、**オールドタウン化の対策に密接に絡み、エリアとしてどうしていくかが課題**となる。
- ・ 地域の空洞化を防ぐために**時間軸及び空間軸としてのバランスを配慮**すべきである。

報告書の骨子（論点）（3）多様性を受け入れる都市のあり方について

課題

言語・文化的な背景の異なる**外国人を地域で円滑**に受け入れ、**共生**するための環境整備

論点

- ① 外国人(留学生・就労者・家族)への**アプローチ・コミュニケーション**
- ② 地域と外国人との**顔が見える関係の構築**に向けた取り組み
- ③ 外国人との共生における**地方自治体の果たすべき役割**
(国・県・受入機関・NPO等との役割分担や、公的支援の必要性)
- ④ その他 外国人の**教育現場における教育支援の課題**／空き家を活用した外国人留学生等の居住

まとめ

- ・神戸は歴史的にも海外に広く開かれた国際港都として、**外国人を寛容に受け入れる風土**があり、多様な外国人と共生しながら今後も発展していけるポテンシャルが高い**多文化共生のまち**である。
- ・**外国人の生活を支援する団体や活動**が根付いており、これらをネットワーク化し、**真に外国人が暮らしやすいまち**にしていくことが求められる。
- ・外国人の子ども達への支援においては、**学校と支援団体の密な連携**が不可欠である。
- ・神戸が外国人に選ばれるだけでなく、**神戸がどう外国へ貢献していくか**ということが、まわりまわって神戸を選んでもらうことにつながる。

おわりに

- 全国的に人口減少・少子高齢化が加速。本市においても150万人(推計人口)を下回り、今後、**中長期的には地域経済の担い手不足／地域防災力の低下／市民生活や都市機能の維持**などあらゆる場面での課題が顕在化していくことが想定されている。
- このような中で、都市政策研究アドバイザリーボードでは、令和5年度(2023年度)において、神戸の都市機能のあり方を多角的に検討してきたが、**クリエイティブで多様な人材が神戸に集まり活躍する都市**を実現していくためには、**中長期的な戦略眼**が欠かせない。
- 人口減少をどう抑制し、これまで経験したことのない少子超高齢社会にどう適応していくかという「**抑制と適応**」の視点を持ち合わせておくことも必要となる。
- この点、神戸は外国人を含めた**多様な人材による寛容で開かれたネットワーク**が張り巡らされてきた独自の歴史を持つ国際港都であるだけに、一日の長があり、今後の議論の深まりが一層期待されるところである。
- この報告書は今後検討すべき多くの論点の一部を提供したに過ぎないが、現在策定作業が進められている次期総合基本計画など、神戸市の**今後の中長期的な政策課題等の検討の一助**となればと願っている。